

SPring-8ユーザー協同体(SPRUC) 組織と活動の概要



SPRUC会長
東京大学大学院新領域創成科学研究所 教授
- 雨宮慶幸 -



SPRING-8ユーザー協同体(SPRUC)組織図



SPRING-8利用者懇談会からSPRUCへ (2012)

組織改編の要点

- 1) 会員数: 約1,200人(建設期からの有志、全ユーザーの約10%)から、
約12,000人(学会の垣根を越えたSPRING-8全ユーザーの自動的入会)へ
- 2) ミッション: 会員個々人の研究活動から、
SPRING-8の有効な利活用動向調査のための会員間の情報交換へ
- 3) 運営: 研究会を中心とするボトムアップ的運営から、
「代表機関会議によるトップダウン」と「研究会によるボトムアップ」的運営が
バランスするアカウンタブルなセルフマネジメントへ

課題: 活動資金の確保 → 制度的ボトルネックの解決が必要
学会活動的な、会員個人の利用研究に資する会費徴収制度から、
施設と対峙して遂行するミッションへの対価としての資金獲得を目指す

組織改編の効果

- 1) 多様化するユーザー・新規ユーザーの利用動向を常に把握
Silent Majority の声を的確に活動にfeedbackする仕組みが可能に
- 2) 利用制度・組織の壁、利用分野の壁を取り払いコミュニティの融合を加速
共用BL/専用BL/理研BL、学術利用/産業利用、グリーンナノ/ライフイノベーション



第1回SPring-8シンポジウム(2012)

「Science, Technology and Innovation」 —学術界、産業界におけるSPring-8の有効利用—

日時： 2012年8月24日(土)13:00～25日(日)15:30

会場： 大阪大学コンベンションセンター（代表機関持ち回り）

主催： SPRUC、JASRI、理研、大阪大学

協賛： 日本放射光学会ほか

研究会活動報告：

全28研究会が活動報告

SPRUC Young Scientist Award :

- Xeniya Kozina (JASRI)
- Marcus Kitchen (Monash University)

パネル討論：

テーマ：「放射光科学のグランドデザインと
SPRUCの果たすべき役割」

日本国内の各放射光施設を代表する
パネラー陣による討論





SPring-8利用動向調査報告書の策定

SPring-8 の利用促進に資する 利用者の動向等調査

平成25年2月28日

した SPring-8 Upgrade Plan Preliminary Report に関する意見	1
アップグレードについて	2
全体に対する意見	2
する意見と希望、質問と研究分野における期待	6
に対する意見	10
に対する意見、質問	10
チ・検出器に関する意見、希望、質問	10
に向けた今後の SPring-8 における研究に関する意見	10
についての研究分野の意見、希望等	11
の Upgrade に関する一般的な意見	15
の時間と期間に対する意見と質問	15
と期間に対する意見	15
と期間に対する質問	15
に対する意見	16
g-8 に関する事項	17
イン、ハッチ及びステーション構造等の改修に関する意見	17
ラインの改修についての意見、希望、質問	27
的な運用	27
的な質問	28
チ、ビームラインに特化した意見、希望	18
ーション構造の改修に関する意見	19
的な意見	19
意見	19
ームラインの情報公開に関する意見	20
ーム研究施設との連携に関する意見	21
的な意見	21
との連携	21
射光施設（含む）との連携	22
利用者へ行う支援業務に関する意見	23
・採扱に関する意見	34
事・採扱に関する意見	34
分派時期に関する意見	34
3.3.1 ビームタイム割り当てに関する意見	34

第8章 Upgrade Plan Preliminary Reportに関する意見

1424 VT

ついで SPARC に寄せられた意見は、概して好意的な内解であつて主張しまく、アップグレードに賛成するという意見が多かったトッププランナーとしての立場を今後も維持しようとする意欲が最も日本の科学技術の水準をある一定以上に保つために必要であるから。次回計画は現状を踏まえて特徴ある内容として受動加速度技術はアップグレードしないと次世代の技術発展がでであるという。ユーザー研究会でありますながら加速度計技術の概念が技術開発にあたり抑制されることが決算会議で指摘されたが、元気のアップグレードを望まない肯定的な意見は少しあることにより、多くの研究者が如何かの研究の質的向上による研究会から寄せられた代表的な意見を以下に紹介する。

と考えておる。X線ビームのコヒーレンスやフラットスベロ
と受け止めている。基本的に日質である。Spring-8 Upgrade
時に問題はない。次期計画が実現すれば、ハーディの実験研究

「先駆者であり高性能。高精度の X 線源として操作するべきで、歯科学の基礎を支える標準器としての役割を持たせること」が、研究とともに、重要であることを意図する。そのための最高要因となるビームラインを構築し、運営することが必要である。計画の時期は早いほど良い。10 年後ではなく直ぐにパフォーマンス、直ぐに実施できない場合であっても、10 年後にも何かがあり、その具体的な実験や試験を現時点で実施するのが遅延リミングであることは重要である。開発電力を挙げて社会状況となるとなお良い。

1

内蔵を英語でまとめた施設側に対し敬意を表するとともに簡便なフォルダ全体からの意見を集約するためにも、内容を国外にもわかりやすく要点をまとめたレポートの作成をお願い。日本語版兩方での作成をお願いしたい。これは、先頭の八谷町の研究会からの意見は、難解に上げられたものの、それを質問事項や、内蔵規則に対する要請が多く寄せられたため



第2回SPring-8シンポジウム(2013)

「Innovative Science & Technology for the Next Generation」
—放射光科学の将来と産業イノベーション—

日時: 平成25年9月7(土), 8(日)

場所: 京都大学 宇治おうばくプラザ



企画委員会&作業部会(WG)の設置

目的: SPring-8利活用の高度化と円滑化、科学技術的進展への協力
放射光科学・量子ビーム科学の発展と分野の展開

運用: 企画委員会の基に具体的なテーマに関する作業部会(WG)を隨時設置。



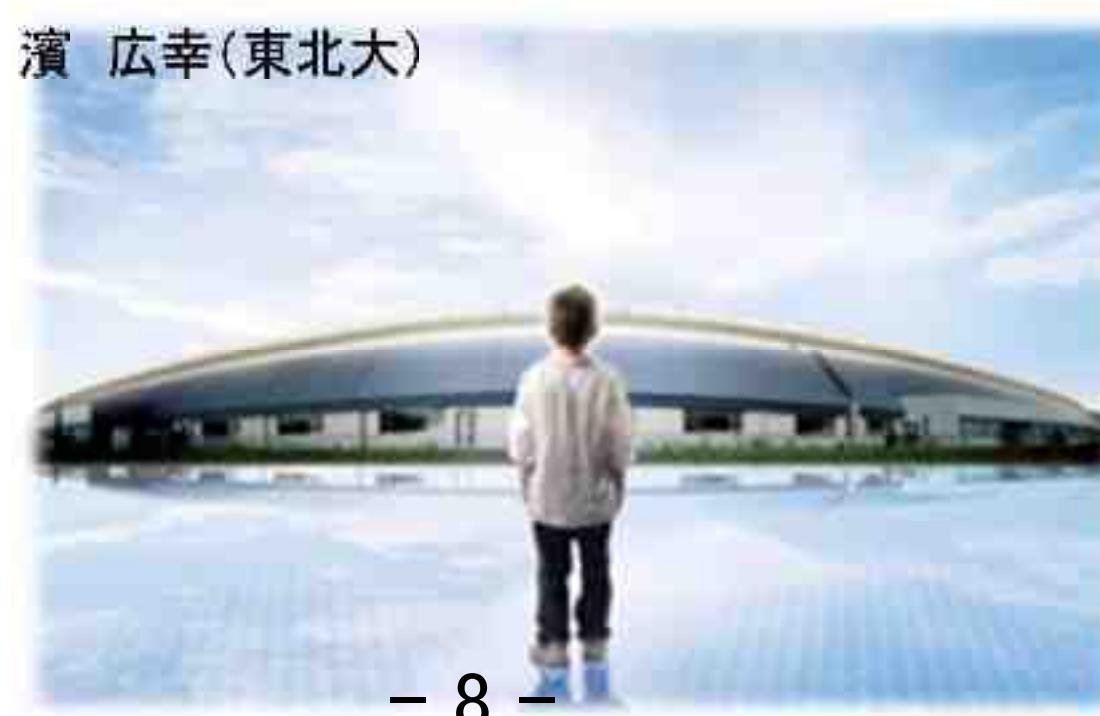
作業部会:「放射光科学将来ビジョン」

目的:

日本の放射光科学/施設のグランドデザインとSPring-8の将来計画の位置づけについて議論し、SPRUCとしての意見集約を行う。

期間: 平成25年3月1日～平成26年3月31日

委員長: 濱 広幸(東北大)



作業部会：「研究会組織検討」(仮称)

目的：SPRUCのミッションに基づく、研究会組織の再編と活動の活性化

検討課題：

- 1)課題解決の観点から、研究会を束ねる研究分野再編
- 2)施設高度化などの意見集約を加速する仕組みとして各研究会を、利用ビームラインの観点からも分類
- 3)有識者からなる研究会顧問を組織し、大所高所からの分野融合について諮問

利用委員会

研究領域委員会

Life Science

Material

Device

Social Life

BL

A研究会

BL

B研究会

BL

D研究会

C研究会

F研究会

G研究会

I研究会

J研究会

K研究会

作業部会:「大学院連合検討」(仮称)

大学院連合とは

SPRUCの代表機関である大学院が中心となって、それぞれの大学院教育プログラムをSPRING-8に分枝させ、分野横断型・产学連携型のカリキュラムとして連合させる。
そして、放射光を実践的に活用した新しいSTIリーダーシップ養成をオンラインサイトで行う。

大学院連合が提供する人材育成ネットワーク





「大学院連合」を実現するための検討課題

- 放射光施設に独自に必要なORT用の教育環境整備
学生の身分、生活支援、経済的支援
- カリキュラムと参加大学(研究科、専攻)における単位認定
- 産業界の専用BL等を利用したインターンシップの制度設計
- 制度の振興を奨励するIncentiveと利用制度の設計



作業部会:「ビームタイム活用検討」(仮称)

登録機関による開発研究 12条課題

(登録施設利用促進機関による利用)

第12条 登録施設利用促進機関は、施設利用研究の促進のための方策に関する調査研究その他の目的で、特定先端大型研究施設のうち研究者等の共用に供する部分を利用しようとするときは、文部科学大臣の承認を受けなければならない。

成果報告

文科省

登録機関の研究開発と
ユーザー利用研究の有機的
な連携の促進



想定される検討テーマ

- ・ テーマのニーズとシーズのマッチング
- ・ 成果に結びつけるビームタイムの有効な連結活用
- ・ マシン性能の維持・高度化のためのビームタイム活用

施設側への要望

SPRUCが、共用ビームライン、専用ビームライン、登録機関の研究者を含む全施設のビームラインのユーザーコミュニティを代表することになった。

それに伴う施設側への主な要望を以下に記す。

＜ユーザーへの情報開示と意見交換＞

- 1)ビームラインのスクラップ・アンド・ビルト、将来計画について、代表機関会議を含めてSPRUCが、設置者である理研放射光総合科学研究所センターおよび登録機関であるJASRIと定期協議を行う場が必要である。
- 2)上記の協議においては、利用研究に関わるSPring-8の運営及び外部評価に関する情報交換も必要である。
- 3)選定委員会及びPRCに、SPRUCの会長がユーザーコミュニティ代表として協議に参加し、ユーザーコミュニティーとして、解決すべき課題を共有することが必要である。

＜ユーザーコミュニティの継続的発展と活動資金確保＞

- 4)上記のユーザーコミュニティとしての貢献は、SPring-8の責任ある運営の持続には必須である。そのためにも、会費を徴収しないミッションオリエンテッドな活動に専念するSPRUCの運営の在り方について、協議が必要である。